

発 言 通 告 書

発言者氏名	ねぎしかずこ
発言の会議	平成29年11月29日 本会議
発言の種類	質 疑、 <u>一般質問</u> 、緊急質問、討 論、その他
質疑等の方式	一 括、 <u>一問一答</u>
答弁を求める者	市 長、教育長

【件名及び発言の要旨】

1 県立三浦ふれあいの村の運営が民間事業者へ移行される問題について

県立三浦ふれあいの村は、横須賀市の小中学校を初め、多くの青少年団体が活用し、本市にとって非常に身近な施設となっている。県は平成30年4月から三浦ふれあいの村を県立施設としては廃止し、現在の指定管理者であるYMCAに運営を移行する方針を示し12月の県議会で条例改正をしようとしている。YMCAに運営が移行されることになれば、これまで支払われていた指定管理料がなくなるため、その分が利用者負担にはね返り、利用料の大幅な値上げとなる。

(1) 本市の教育に与える影響について

ア 現在、この施設を利用している市内の小中学校などでは、今度の変更によって支出がふえるなどの影響があると思うが、どう受けとめているか。

イ 民間運営に移行する旨の説明を県から受けたときに市としてはどのような意見・要望を述べたのか。

(2) 青少年団体などに与える影響について

ア 関連団体への説明はどのようにされているのか、把握しているか。

イ 県に対し県立施設として存続するよう求める必要があるのではないか。

ウ 広く市民の意見を聞くとともに関連団体への説明と意見を聞くよう市として県に働きかける必要があるのではないか。

2 横須賀を母港とする米艦船にかかわる事故の多発について

今年は1月から、横須賀を母港とするイージス艦の座礁や衝突事故が相次いだ。この11月には、横須賀を母港とする米艦船にかかわる事故が2件も立て続けに起こった。11月18日には、相模湾沖でイージス艦ベンフォールドの曳航訓練中、ベンフォールドを曳航していた日本の民間曳航船とぶつかる事故を起こし、11月22日には、原子力空母ロナルド・レーガン艦載機C-2輸送機が、訓練中に東京都の沖ノ鳥島沖に墜落するという事故が起きた。

- (1) これほど頻繁に事故が発生するのは、なぜだと市長はお考えか。また、なぜ起きたのか、米軍に尋ねたのか。
- (2) 米軍と話す機会に、これだけの事故に対して苦言を呈する場面はあったのか。あったのであれば、米軍の対応は、どのようなものであったのか。
- (3) 米軍に、米艦船の航行や米航空機の飛行に対するルールの徹底を求めることを初め、事故防止体制を確立するよう、また、それを文書で示すよう求めるべきではないか。
- (4) 少なくとも、イージス艦の横須賀へのこれ以上の追加配備を拒否する姿勢を示すべきではないか。

3 米兵犯罪について

- (1) 11月19日、沖縄の那覇市で、米兵が飲酒運転により、軽トラックを運転していた男性を死亡させるという事故が起こった。この事故を受け、在日米軍は全兵士に飲酒を禁止し、在沖縄米

軍には基地外への外出の禁止も命じたが、事件から一定期間が過ぎるとそれら禁止措置は解除され、事故を再び起こすことが、繰り返されてきた。本市でも、11月3日に住居侵入事件が発生し、その際の本市の対応は、基地対策課長から、米海軍横須賀基地司令部に対し、再発防止及び教育の徹底について口頭にて申し入れたとのことだが、歴代の市長と同様に判で押したような決まり文句の繰り返しには、がっかりした。米兵犯罪に対し、「自分には沖縄の血が流れている」とおっしゃっている上地市長らしい言い方で、いま一度、抗議すべきではないか。いま、この場で抗議できるのなら、ぜひ聞かせてほしい。

- (2) 11月17日、米国防総省は米軍内で深刻になっている性暴力の件数について、初めて基地別に明らかにした。日本人の被害が含まれているかどうかは不明だが、横須賀基地における件数が飛び抜けて多くなっている。このような犯罪傾向が横須賀基地内外にいる日本人にも及ぶ可能性があると考えるのが自然だと思うが、この状況に対する市長のご感想はいかがか。
- (3) 2006年に横須賀で起きた米兵による殺人事件は、その賠償について、ようやく、10年以上経過した11月17日に、遺族と米軍との間で協定書が調印された。しかし、米軍が、賠償金全額を支払わなかったり、11年も賠償を行わなかったりしたことによる遅延損害金を支払おうとしないことなど、残された課題もあり、改めて、米兵犯罪被害の深刻さと救済の不十分さが明らかになった。市長は、このような本市に居住する米兵犯罪被害者やそのご家族に寄り添い、米軍に言うべきこと、求めるべきことを、被害者の意を酌んで、米軍や国に訴えてほしいと思うが、いかがか。